

平成29年度定期総会は、5月14日、昨年と同じホテル・ルプラ玉山2階「金鯨の間」にて、米賣・会員総勢約50名の参加を得て開催された。

江端相談役（陸自59）の司会で国歌斉唱に引き続き、戦没者・殉職自衛官、当会物故者に対する黙祷を行った。

水野会長の挨拶では、借行社の設立理念「英霊に敬意を 日本に誇りを」を敷衍（ふえん）するものとして、先の大戦後概ね5年間に亘るアメリカ合衆国を初めとする連合国の人種的偏見や、戦で大苦戦を強いられたことへの腹いせと思しき幾つかの「日本弱体化政策」（今から見れば正に「大失態」だったのであるが……）、が紹介された。

具体的には、「アメリカ主導で作成した日本国憲法を制定させ、併せてこの事実を日本国民に知らせないこと」、「日本弱体化のため、共産党等左翼分子でさえも活用すること」等であったが、朝鮮戦争での満洲地域の爆撃を主張し連合国司令官を解任されたマツカースーが帰国後、本国の外交防衛委員会において、我が国への過去の認識を改め、「日本に取ってかの戦いは『日本の自衛のための戦い』であったこと」、「占領政策での失策は『コミンテルンの跋扈（ばっこ）を許した』こと」等、発表したが時すでに遅しであった。

道に感わされることわされることなく、改めて歴史を正しく学ぶことの大切さ等、ご自身の思いの丈を披露された。

次いで、泉副会長（陸自63）を議長に選出、同氏の進行により、

第1号議案 平成28年度事業報告、

会計報告、会計監査報告

第2号議案 平成29年度事業計画（案）

第3号議案 会則改訂&役員選任（案）

と審議が進められ、理事会提案のとおり満場一致で承認された。

議事審議終了後、借行社総務委員・河村仁様の祝辞で、今後の借行社への入会促進に向けてのなお一層の努力への要望等が述べられ、最後に第10師長・山本頼人陸将及び第10特科連隊長兼ねて豊川駐屯地司令・伊藤久史上等陸佐からの祝電が披露され、定期総会を終了した。

小休憩の後、陸上自衛隊守山駐屯地業務隊長・山下和敏氏を講師に迎え、「原子力災害派遣「3 km圏内の真実」」と題した記念講演が実施された。

これは、氏が福岡県飯塚市に駐屯する第2施設群の群長として、東日本大震災当時、福島原発直近の地域において、強烈な放射線と闘いながら、被災者ご遺体の搜索収容というまさに現地において活動された生々しい体験を発表したものであり、聴講者一同の記憶に深く残るものであった。

当会会員にあってはマスコミの偏同報



陸自OB会員代表の幹部候補生学校校歌の斉唱

リーダーとする陸上自衛隊第10音楽隊アンサンブルによる音楽演奏を堪能した。

懇親会食は、前扶桑町長陸自57江戸満様の音頭の乾杯で開始され、宴は、参加者相互に情報や意見の交換、記念撮影等で親交を深めつつ、恒例の各期別等の軍歌演習と続き、最後は、「陸軍士官学校校歌」、「陸上自衛隊幹部候補生学校校歌」で締めくくり、陸自61坂尻源作氏の音頭で万歳三唱、木会名誉会長・名幼47期後藤昭様の閉会宣言で閉幕した。

役員選任(第3号議案関連)

名誉会長 後藤 昭(幼校47)

相談役 高田 透(陸士60)

同 山田節夫(陸士61)

同 浅井忠夫(陸自57)

同 江端良平(陸自59)

同 水野雅章(陸自57)



従来会員代表による陸軍士官学校校歌の斉唱

副会長 臼山 繁(陸自62)

同 沖見光洋(陸自62)

同 泉 保二(陸自62)

同 山上 登(陸自66)

同 水谷 登(陸自69)

同 松本康人(陸自70)

同 常任理事 安藤 裕(陸士58)

同 不破喜久夫(陸士59)

同 山田順祐(陸士61)

同 小竹一三(幼校48)

同 仁木一男(陸自65)

同 木原文雄(陸自68)

同 山田完治(陸自71)

同 小山幸平(陸自76)

同 鈴木健之(幼校47)

同 監 事 鈴木久悟(空自81)

同 事務局長 木村鍾治(陸自71)

同 副事務局長 森部直民(陸自73)

同 鈴木和義(空自75)